

規則様式第 2 号

政 務 活 動 報 告 書

令和 7 年 2 月 1 0 日

丹波市議会
議長 谷水雄一 様

会 派 名 _____

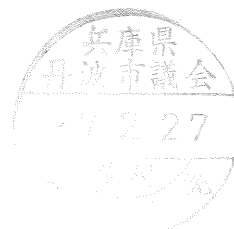
代表者氏名
又は議員名 _____ 谷水雄一

このたび、政務活動を実施しましたので、丹波市議会政務活動費の交付に関する規則第 4 条第 2 項の規定により、次のとおり報告します。

記

活 動（調査） 期 間	令和 7 年 1 月 2 9 日
活動（調査）先	◎視察先名称・住所・電話番号 兵庫県立広域防災センター 兵庫県三木市志染町御坂 1-19 0794-87-2920 三木市役所 兵庫県三式上の丸町 10 番 30 号
参 加 議 員	谷水雄一
活 動（調査） 内 容 の 概 要	◎兵庫県立広域防災センター ・設立経緯 ・施設見学 ◎三木市役所 ・縁結び課の取組 ・防災に関する取組

※議員それぞれの報告書及び参考資料を添付



視 察 報 告

議席番号 18番

氏名 谷水雄一

日程 令和7年1月29日

視察先 兵庫県立広域防災センター、三木市役所 縁結び課

1. 視察目的

今回の視察は、兵庫県立広域防災センターおよび三木市役所縁結び課における取り組みを通じて、丹波市の防災活動や人口減少対策について学ぶことを目的としています。特に、震災の教訓を生かした防災体制や、市民を巻き込んだ人口減少対策について、丹波市の今後の方針にどのように活かすことができるかを考察することが重要でした。

1) 兵庫県立広域防災センター

兵庫県立広域防災センターは、1995年の阪神淡路大震災を受けて設立され、県内各地の自治体と連携し、災害時の対応拠点として機能しています。視察では、施設の設立背景と役割、平時・大災害時の活動体制について詳しく説明を受けました。

- 施設の設置背景と目的

阪神淡路大震災の教訓を基に、広域防災センターは災害時に迅速かつ的確な対応を行うために設置されました。施設の役割は、災害発生時の情報伝達、避難誘導、支援活動を総合的に管理することです。また、平常時においても地域住民への防災教育や訓練が行われており、その重要性が改めて認識されました。

- 備蓄品と陸上競技場の活用

施設内の陸上競技場には、災害時に備えた大量の備蓄品が保管されており、緊急時には迅速に支援物資が提供できる体制が整っています。特に、食料、救助資機材、避難所開設時の資機材などの基本的な備品が適切に管理されており、その規模と備蓄状況に驚きました。

- 丹波市との連携

兵庫県内の自治体との連携体制が強化されており、丹波市でも「丹波の森公苑」を拠点に、広域防災拠点と連携した災害対応が行われていることが確認できました。このようなネットワークの構築は、地域ごとの独自の対策を超えた広域的な対応力を発揮するために非常に重要です。

2) 三木市役所 縁結び課

三木市役所の縁結び課は、人口減少対策の一環として、未婚化率の解消を目指して設立された部署です。平成26年の設立以来、市内外から注目される婚活支援策を展開しています。特に、行政主導で進める人口増加策として、移住促進や空き家対策、婚活イベントなどの多

岐にわたる施策が紹介されました。

- **設立の背景と市の理念**

三木市では、人口減少が深刻な問題となっており、「誇りをもってくらせるまちみき」というビジョンの下、縁結び課が設立されました。市民の結婚や定住を支援することで、人口流出を防ぎ、地域活性化を図っています。行政が中心となることで、個人情報取り扱いやプライバシーにも配慮した安全な支援が行われています。

- **主要施策と成果**

縁結び課では、婚活イベントや移住支援、空き家バンクの運営を通じて、地域の結婚・定住を促進しています。特に、サポーターの活躍や地元企業・団体と連携した婚活イベントの開催は、市民参加型のアプローチとして注目されています。これにより、地域のつながりが強化され、市民一人一人が「まちづくり」に積極的に関わるよう促進されています。

3) 三木市の防災に関する取組

三木市では、防災活動が積極的に推進されており、市民参加型の活動が特徴です。防災意識を高めるために、「防災クイズラリー」や「自主防災組織育成研修会」など、地域住民と連携した取り組みが行われています。

- **防災クイズラリーと市民参加**

市民の防災意識を向上させるため、「防災クイズラリー」などのイベントが開催されており、市民が楽しみながら学ぶ機会が提供されています。これにより、市民一人一人が防災意識を高め、地域の防災力が向上しています。

- **自主防災組織の育成**

毎年1月に行われる「自主防災組織育成研修会」では、市民に自助・共助の重要性を伝え、防災活動への参加を促しています。これにより、地域ごとの協力体制が強化され、災害時の迅速な対応が可能となります。

3. 丹波市への応用と考察

兵庫県立広域防災センターや三木市の取り組みから学べる点は多く、特に丹波市においても有益な施策がいくつか見受けられました。

- **広域防災センターとの連携強化**

丹波市も広域防災拠点との連携をさらに強化し、災害時の情報共有や物資供給体制を充実させることが重要です。また、地域の防災拠点を増設し、市民に対して備蓄物資の管理や防災知識の普及を積極的に行うことが求められます。

- **市民参加型の防災活動の導入**

三木市のように、市民が参加できる防災イベントや訓練を積極的に導入することで、地域住民の防災意識を高めるとともに、災害時の協力体制が強化されると考えます。

- **人口減少対策としての「縁結び課」の活用**

三木市の縁結び課のように、丹波市でも行政主導で人口減少対策を進めることが重要です。移住支援や空き家バンク、婚活支援などの施策を通じて、地域の人口増加を促進し、持続可能な地域社会を実現するために取り組む必要があります。

4. 結論

今回の視察を通じて、兵庫県立広域防災センターや三木市役所の取り組みから得た知見を丹波市の防災体制や人口減少対策に反映させることができると考えます。特に、地域住民と連携した防災活動や行政主導での人口増加策は、今後の丹波市の発展に大きく寄与するものと考えます。引き続き、これらの取り組みを参考にしながら、丹波市の状況に応じた最適な施策を検討・推進していきたいと思えます。